

土木工学・建築学委員会企画分科会環境工学連合小委員会  
第24期・第4回議事録

日 時 平成 31 年 1 月 16 日 (水) 10:30~12:05

会 場 日本学術会議 6 階 6 - C (1) (2) 会議室

出席者 米田、嘉門、宮崎、森口、梅村、大岡、玄地、坂巻、高島、新苗、西嶋、  
藤倉、村上

オブザーバー 神原 (日本機械学会)、岡部 (環境資源工学会)、  
松崎、高野 (資源・素材学会) 河瀬 (日本化学会)

配布資料

- 資料 1 環境工学連合小委員会 (第 24 期・第 3 回) 議事録
- 資料 2 環境工学連合小委員会委員名簿 (当日更新版配布)
- 資料 3 第 32 回環境工学連合講演会プログラム案 (当日更新版配布)
- 資料 4 第 33 回以降の環境工学連合講演会の運営体制およびテーマについて
- 資料 5 小委員会の今後の検討課題について

議事

1. 前回議事録の確認

- ・前回小委員会までの議論の経過・内容を確認した。

2. 委員の辞任および委員の追加について

- ・4学協会で委員が交代となること、ならびに学術会議第三部会員浅見真理新委員の小委員会への参加を確認した。今後学術会議内で新任の承認手続きを行われる。退任については小委員会における本審議をもって承認となった。
- ・この度委員が交代する学協会への連絡は、今後、新委員を通じて行うことを確認した。
- ・米田委員より浅見新委員加入の経緯と合わせて、分野の垣根を越えた活動の必要性等について意見が述べられた。

3. 第32回環境工学連合講演会の開催案および広報について

- ・主幹事学会である資源・素材学会の村上委員より第 32 回講演会プログラム案の構成・経緯等の説明あった。あわせて以下の点が確認された。
  - 講演論文集原稿については、編集の労力抑制のため最終原稿に近いものを提出するよう協力を依頼する。
  - 参加者登録は web システムを活用する予定である。
  - パネルディスカッションにおいては、各セッションのまとめ・報告を座長等から行う可能性がある。
  - 本年講演会においては、講演論文集を無料とすることとした。
- ・プログラム案および運営方法について以下の意見あった。それらの意見をふまえながら、主幹事学会においてさらに一部セッションの組み替えを含めプログラム案の改訂をすすめる。
  - わかりやすいセッション番号をつける工夫してはどうか。

- 開会挨拶は5分とし、運用上基調講演10:50までに終わるようにすすめることとし、午前のセッションは11:40までと明記するのがよい。
- 基調講演について仮題でもよいので記載が望ましい
- セッションタイトルをよりわかりやすいものにする余地があるのではないか、との意見があり、セッション組み換えの案が検討された。
- ・座長および閉会担当委員へ、担当の承諾を確認した。
- ・プログラム案は修正後、学術会議HPに掲載されるとともに、各学会へ広報の依頼を行われる予定である。
- ・講演論文集の著作権の取り扱いについて、学術会議としてのルールの有無を事務局で確認することとなった。ルールが特に設定されていない場合には、従来どおり著作権は発表者が保持することを確認した。

#### 4. 第33回環境工学連合講演会の運営体制およびテーマについて

- ・森口委員長より、関連するこれまでの議論の経緯とあわせて、第33回の運営体制とテーマ決定の進め方について説明があった。
- ・第33回講演会のテーマは、主幹事となる土木学会においてテーマ案を検討し、適宜小委員会執行部とも相談しながら5月の小委員会でテーマ案が提示できるよう準備を進めていくこととした。

#### 5. 小委員会の今後の検討課題

- ・連合講演会活動のHP開設について意見交換を行った。HPにおける管理を誰が行うのか、費用負担・支払い方法などについてさらに検討が必要である。また、管理のしやすさやコストを考え、過去のプログラム掲載などにHPの内容を限定してはどうかとの意見があった。
- ・講演会運営において、新たに副幹事学会が加わることに関連し、運営作業の分担のあり方について意見交換を行った。講演論文集の編集や当日運営などで分担が機能することが期待される一方で、事務局作業の分担は難しいのではないかと意見もあった。引き続き分担方法の議論を継続する。
- ・本小委員会の活動にも関連して、米田委員より、公益法人改革のために学協会により経理が非常にやりにくくなっている現状と、それに対する研究者コミュニティによる関連機関への改善働きかけに向けた取り組みの現状について説明があった。

#### 6. その他

- ・資料中などで「幹事学会」という表現の対象がわかりにくいとの指摘があった。そのため、今後は、輪番で講演会運営を担当する8つの「幹事学会」とともに、年毎の連合講演会を運営する「主幹事学会」および「副幹事学会」という使い分けを確認した。

以上